

令和7年度 第3回 藤沢市介護保険運営協議会 質問回答一覧

議題(1) 第9期介護保険事業計画の進捗状況【資料1】

項目	質問等	質問者	回答
1	要介護5の実績値が計画値を下回ったのは理解できるのですが、要介護2～4も計画値を下回ったのはどのような理由が想定されますか。	竹松委員	要介護2から4については対計画比の傾向としてはいずれも令和4年度よりほぼ下がっていく傾向にあり詳細な理由については不明ですが、今後も実績値が計画値より乖離していく傾向が継続していくのかどうか、また乖離の幅などに注意していく必要があると考えています。
2	医療ニーズの高い在宅高齢者の増加が今後も続くと思われませんが、それに伴い訪問看護や居宅療養管理指導等の在宅の医療系サービスの需要も高まってくると思われませんが、医療系サービスの対応(需要供給量及び人材確保の見通し)は十分なのか、分かる範囲でお聞かせ下さい。介護老人福祉施設の近年の平均在院日数の推移と、在院期間が長期化しているのかいないのか、分かる範囲でお聞かせ下さい。	横倉委員	訪問看護や居宅療養管理指導、看護小規模多機能型居宅介護については、需要の高まりが実績値からも示されており、令和6年度においては、計画値に近い水準でサービスが提供されていると考えています。人材確保につきましては、医療系サービスに限らず、介護保険サービス全体において、人員確保は大きな課題となっています。在宅医療系の需要が高まっている状況を鑑みると、今後の安定的なサービス提供のためには、人材の確保や定着に向けた取り組みが重要であると捉えています。 介護老人福祉施設の近年の平均在院日数の推移や在院期間の長期化に関しては、市として個別の在院日数等を集計・分析までは行っていないため、具体的な数値や傾向についてお答えできない状況ですが、今年度より、介護老人福祉施設における待機者調査項目については施設長による定例会においてご意見をいただきながら適宜見直しを実施しており、今後も現状把握できるように進めてまいります。

3	<p>要介護認定者数の合計値が計画値に近い実績にある中、要介護5が計画比を下回っているということは介護の重度化が防げているということでしょうか？</p>	猪狩委員	<p>要介護5の認定者数が計画値を下回っている状況は、必ずしも「介護の重度化が防げている」と断定できるものではないと考えています。 高齢者の死亡数が増加した結果、重度の要介護認定者が減少した可能性や、要介護5の高齢者が、介護保険サービスではなく、医療機関への入院や介護保険制度外の施設サービスなど、他のサービスを利用している可能性も考えられます。</p>
4	<p>(10) 短期入所療養介護等に関する28頁の実績説明として、「計画比118%」の増加について「市外施設を利用する等、従前の利用量が維持されていたことも考えられる」としていますが、具体的にはどのようなことを指すのでしょうか(可能であれば教えて頂きたい)。</p>	鈴木委員	<p>計画策定時においては、市内の介護老人保健施設が減少することから、短期入所療養介護等の給付費及び利用者数についても、一定程度減少すると見込んでいました。しかし実績では、当該施設の減少分について、市外の介護老人保健施設等を利用する等、代替的な利用が進み、結果として利用量が大きく減少することなく、従前の利用量が維持されました。このため、計画比で118%という増加となったものと考えています。</p>

議題(2) 介護保険サービス事業所の指定等について【資料3】

項目	質問等	質問者	回答
1	ご質問・ご意見等なし		

議題(3) 指定地域密着型サービス事業所の指定等について

項目	質問等	質問者	回答
1	地域密着型通所介護事業所が2事業所廃止となっておりますが、主にどういった理由でしょうか？	猪狩委員	事業所個別の廃止理由につきましては、回答は控えさせていただきます。
2	認知症GHの運営指導において、「洗剤は利用者の手の届かない所に置く」等の指導がありました。国や藤沢市がすすめている「新しい認知症観」を醸成する取り組みと乖離していると感じられ現場では戸惑いがあります。今後こういった方針で指導を進めますか？	猪狩委員	洗剤等の異食・誤飲については、「介護保険施設等における事故予防及び事故発生時の対応に関するガイドライン(令和7年11月厚生労働省 老健局)」に例示されている事例であることや、実際に発生していることが報道されていることから、施設における事故を未然に防ぐ安全管理の観点でご指摘させていただいており、利用者の自発的な活動を否定する意図のものではないため、本市の取り組みと乖離するものではないと認識しております。 今後の運営指導につきましても、認知症の人の尊厳を保持できるようにすること、施設の安全管理の両方の視点を持ちながら、指導するように努めてまいります。

議題(4) 藤沢市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画策定委員会の選考について

項目	質問等	質問者	回答
1			
	ご質問・ご意見等なし		

議題(5) 令和7年度地域包括センター活動報告(4月～11月)【資料5】

項目	質問等	質問者	回答
1	相談支援業務等活動状況を地域別に見てみると、必ずしも高齢者人口と相談数が比例しているわけではないようです。地域性や相談しやすい環境等要因があればお知らせください。	竹松委員	相談件数と高齢者人口を単純に比較すると地域特性は見えにくいですが、相談実人数と高齢者人口には一定の相関性があると考えます。市民センター内にある地域包括支援センターは、イベントやサークル活動の合間に気軽に立ち寄れる場所であり、相談しやすい環境にあると考えます。このため、地域ごとの相談数は単なる人口数だけでなく、相談しやすい環境や地域の特性、住民の交流状況など複数の要因が影響していると考えられます。
2	3.相談内容内訳(延)の中の「虐待関係」「精神疾患」の詳細について、分かる範囲で、お聞かせ下さい。	横倉委員	相談内訳の「虐待関係」については、虐待通報や相談の対応が主であり、相談者はケアマネジャーやサービス事業所が多くなっています。「精神疾患」については、対象者に精神疾患が疑われる場合、関係性を構築することや、医療が必要と思われる場合は医療機関につなぐまでに時間がかかるため、総対応件数が増加しています。自覚がなくセルフネグレクトや近隣トラブルにつながるケースもあり、1件あたりの対応にかかる手間も増えている状況です。